

2015年12月号

ほくし

発行所

一般社団法人 大阪北区歯科医師会

大阪市北区南森町1丁目4番28号
プールパール南森町205号室

TEL(06)6363-0016 FAX(06)6363-0046

学術講演発表会(会員発表)

「怖くないサイナスリフト」

H27.11.16

HP



十一月六日(月)、北区民センターにて北区歯科医師会の若手のホープである筒井純也先生の講演会が開かれた。筒井先生は平成二〇年〜二十三年の間、ニューヨーク大学歯学部総合診療科とインプラント科に留学、帰国された後、平成二五年四月よりフェスティバルタワー筒井歯科にてご活躍中です。N.Y.U.のインプラント科といえば、かの有名なDennis Tarrow教授が在籍されていた教室であり、多くの著名なドクターを輩出しています。

当日の講演会の題目が「怖くないサイナスリフト」ということもあり、会員の先生方の期待感も高まっていたようである。なぜならサイナス

リフトというのはインプラントの適応症を広げる、科学的にもしっかりと下支えされた成功率の高いテクニックであると同時にテクニクセシティブな治療であり、一度感染を起こせば眼窩底部にまで至る可能性もある、多くのインプラントを行なう先生にとっては一つの大きなハードルとして考えられている治療だからである。コワイ治療をコワくない治療にするためには術前の診断をしっかりと行ない、偶発症が起こる可能性を減らすこと。それぞれの偶発症についてよく理解し、起こった際の処置法について習熟しておくことなどが重要となる。

最も多い偶発症として、まず治療中の出血が挙げられる。CTで上顎洞内外の血管の位置を確認しておくこととビエゾサージエリーを行なうことでほとんどの大出血を防ぐことが可能となるが、もし出血してもほとんどの場合、十五分程度で止まること示されており、筒井先生は多量の出血が見られた場合でもバキュームで吸引し

つづけながらオペを進めていけるそうである。次にシユナイダーメンブレン(上顎洞粘膜)の穿孔であるが、まず解剖学的要因として上顎洞の形態(幅が狭く、鋭角な形態)、隔壁の存在などが挙げられ、手技上での困難な場面としてはウインドウ形成時、小さい術野、視野で手術を進めようとする時、隔壁部挙上時などが挙げられる。穿孔を起こさないようにするためにはビエゾサージエリーを用いること、充分な術野と視野を確保することが大切であると述べられた。

穿孔を起こした場合はその穿孔の大きさをチェックすることも大切である。五ミリ以下の小穿孔の場合、しっかりと剥離を進めていくことでシユナイダーメンブレンの緊張が緩み、穿孔部が閉じることも多い。この場合はなんにもする必要がない。五〜一〇ミリ程度の中程度の穿孔であればコラテープを穿孔部へ貼付し、手術を続行する。コラテープは安価であり、創傷治癒に有効に働くため問題解決に有用なマテリアルである。それ以上の大きな穿孔の場合には手術の中止も考える必要がある。無理をして手術を続行すると上顎洞内部に移植骨(N.Y.U.ではBio-Ossが第一選択)が散らばってしまう

術後感染の大きな要因となるためである。

非常にユニークなアイデアであるが、N.Y.U.では近年二回法でのサイナスリフトを提唱しているとのことである。術前の診断で破れる可能性が高い場合は患者にその旨をしっかりと説明しておき、やはり破ってしまった場合はその破れる要因となっていた隔壁の除去を行い、ウインドウも大きく開け、コラテープを上顎洞底部に設置した後フラップを復位する。その後三〜六週後に同部に再度アークセスし、上顎洞側壁部位を部分層で切開を進めることにより、同部の結合組織で上顎洞粘膜が守られた状態で上顎洞を挙上することが可能となる。筒井先生も必要に応じて患者に二回法の挙上術を説明しておき、穿孔が起こらなかった場合は一回法、起こった場合は二回法で行っているそうである。このアイデアはなかなか画期的で、我々のサイナスリフトは怖い、難しいという感覚を少しは緩和してくれそうである。

タフな平日の診療後にもかかわらず四十名超の会員が興味をもつて聴講されており、明日からの臨床にすぐ役に立つ知識ということもあり、すこぶる好評な講演会であった。(学術部・大月基弘記)

パノラマ

最近、梅田近辺のホテル予約が外国人客の増加でとれないらしい。今年一〜一〇月の訪日外国人客数は、過去最高を記録した昨年の年間客数をすでに上回っており、年間二〇〇万人に迫る勢いだ。また、中国人の爆買いもあり日本の小売各社の売り上げは大きく伸び、百貨店では訪日客向けの売り上げが二〜四倍と急増し経済効果をもたらししている。二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピックの開催決定を契機として、国も地方公共団体も外国からの観光客の誘致に取り組んでいる。大勢の外国人が来日し、日本の様々な伝統・文化を知る事で日本に対する理解を深めてもらう事は大変有意義であり、また経済効果もおおいに期待できる。しかし他方で外国人による不法滞在、不法就労などの問題や麻薬取引などの犯罪、さらには先日パリで起こった国際的な組織によるテロなどの懸念も大きい。今後オリンピック開催などで来日する外国人の大幅な増加が見込まれるがウエルカムだけではなく問題が起こらない様に入国審査等しっかりとした対策を講じてほしいものだ。(A)

北区みんなの健康まつり

H27.10.24

HP

北区三師会、地域振興会、保健福祉センター、消防署、他多くの団体の協力により北区みんなの健康まつりが十月二十四日(土)、午後〇時三〇分より北市民センターにて開催されました。今年



のテーマは「力を合わせ健康な街北区を！」でした。

医師会は各科医療相談、薬剤師会は家庭常備薬その他いろいろな薬の相談を行い、そして私たち歯科医師会では大淀地区が高齢者の

歯科相談を、当会が三年前から行ってきた無料のフッ素塗布を担当しました。

また、樋口歯科医院より二名、合計四名もの歯科衛生士の協力をいただき、当会からも大塚会長、木下副会長、樋口常務理事、以下地域医療部全員の参加で実施しました。

当日は絶好の秋晴れに恵まれ、たくさん親子連れの参加をいただきました。結果、去年を上回る一三四名もの子供たちにフッ素塗布を行い、盛況のうちに幕を閉じました。

(担当理事・國田浩之)

第二五回 大阪市北部隣接七地区地区長懇談会

H27.12.5

十二月五日(土)、午後六時三〇分からホテル阪神に於いて、第二五回目となる大阪市北部隣接七地区地区長懇談会が開催されました。

今年の当番地区である此花地区の武下地区長の挨拶のあと、大阪府歯科医師協同組合から来られた村上理事長より協同組合のご説明がありました。

当会からは、大塚会長、野口副会長、専務の佐々木が出務いたしました。

協議では、(一)未入会問題について、(二)他職種連携事業の進め方と現状について、(三)各地区地域医療支援病院との運営委員会の開催状況について、(四)医科歯科介護連携事業の進捗状況について、(五)会員減少と会員の高齢化に伴う財



務状況への対応についてなどの問題があげられ、会場を移して開催された懇親会でも、引き続き、各地区の直面する問題についての悩みや苦悩などの突っ込んだ意見交換がなされ、実のある協議会となりました。

(専務理事・佐々木裕)

在宅歯科医療連携体制推進事業「他職種連携在宅歯科医療研修会」

私たち歯科医師会は厚生労働省の地域医療介護相互確保基金を活用し、大阪府歯科医師会が大阪府より受諾した在宅歯科医療連携体制推進事業の一環として標準研修会を平成二六年度より開催しております。近年多職種連携の重要性が強くうたわれておりますが医科、歯科、薬科、介護の関係職種の相互理解が必要不可欠だと考えます。

そこでこのたび、他職種の方々に向けた研修会が一回シリーズで大淀地区と合同で行われることとなり、北地区の主催で第四回、大淀地区で第五回の研修会を行いました。

第四回は八月二十七日(木)、午後一時三〇分から北地区在宅サービスセンターに於いて、多くの他職種の方々のご参加のもとで開催し、樋口常務理事の司会のもと、大塚会長の挨拶で開会しました。講師に資生堂リサーチセンターの池山和幸先生(医学博士・介護福祉士)をお招きして「化粧療法が心、脳、身体、口腔にもたらす効果」というテーマで、化粧

粧療法の有効性について講演して頂きました。第五回は九月二十四日(木)、午後一時三〇分から、同センターに於いて、講師にグラクソスミスライン社の築山啓子先生をお招きして「高齢化社会においての口腔ケア」をテーマに講演して頂きました。研修会が予定より早く終わったので、急遽、大塚会長による講演が行われることになりました。内容は、子供の口呼吸についてと摂食嚥下が高齢になるまで影響があること、その一つの治療法というべ体操についての講演でした。



第六回は一〇月二十二日(木)、午後一時三〇分より同センターに於いて、大淀地区の主催で開催されました。講師に大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能治療学教室の野原幹司先生をお招きして「ケアの視点で行う高齢者の食支援」というテーマで、脳卒中や認知症など、摂食嚥下障害の様々な症例に応じた摂食嚥下のアプローチについてわかりやすく講演して頂きました。

(担当理事・國田浩之)

医療管理講演会

H27.10.14

一〇月一四日(水)、午後七時三〇分より東急REIホテルに於いて医療管理講演会が開催されました。講師に株式会社日本経営歯科事業部副部長・金谷晃秀様をお招きし、「マイナンバーの概要と歯科医院での実務対応に関して」についてご講演していただきました。

内容としてはマイナンバー制度の概要、マイナンバーの利用について、税務・労務への影響、安全管理措置対策、制度導入に向けて歯科医院で準備することについて、基本的のことを平易に解説して頂き、歯科医院の現場での導入のポイントを説明して頂きました。参加者数は五七名でした。

(常務理事・中川晴彦)

8020運動推進特別事業 「青年期における歯と口の健康サポーター育成研修会」

H27.12.3

大阪府と大阪府歯科医師会をはじめとした歯科関係機関は、府民が八〇歳になっても二〇本以上の自分の歯を有することができるよう8020運動を推進してきました。8020達成者率の改善のためには、歯の主な喪失原因となる歯周病の罹患状況の改善が不可欠です。歯周病予防を推進していくためには中年期を迎える前すなわち青年期において、府民一人一人が歯科疾患に対する早期発見、早期治療の意識を持つことが必要です。しかしながら、学校保健安全法に基づく歯科検診は小学校、中学校、高校については実施が規定されていますが、大学、短大、専修学校については実施について規定されておりません。

「歯と口の健康サポーター養成事業」はこうした現状を踏まえ、大阪府内における大学、短大、専修学校における保健担当者を「歯と口の健康サポーター」として育成し、「歯と口の健康サポーター」が学校において学生に対し歯と口の健康



作りの重要性について意識付けを行うことにより、学生の歯科口腔保健の意識向上を図ることを目的とした事業です。

そこでこの度、北区歯科医師会ではこの研修会を十二月三日(木)午後三時より北歯会館にて実施しました。

行岡保健衛生学園、大成学院歯科保健衛生専門学校、近畿医療専門学校、大阪済生会中津看護専門学校、大阪府立保健医療センターの四校から保健担当者それぞれお迎えし、初めに大塚会長の挨拶の後開始しました。まずは事前説明として、

(一) 本事業実施背景と大学、短大、専修学校に

おける歯と口の健康づくりの意義について、(二) 歯と口の健康づくりの基礎知識について、の解説を行いました。

その後、本日のテーマを「学生が歯と口の健康に興味を持つにはどうすればいいか?」としてディスカッションを行い、以下のようないろいろな意見が出ました。興味を引くアプリを考える、歯磨き体操的なものを作る、歯がきれいだとするとアピールする、お金をかけずに口の中を知る方法を作る、歯科医師会、歯科衛生士会による健口アプリを考える、朝から隣の席の人と口臭チェックをする、Q&A窓口を歯科医師会で作る、専門学校の授業で講義してもらう、などです。

最後に本日のまとめ、閉会の挨拶を木下副会長が行い、終了しました。

この「青年期における歯と口の健康サポーター養成研修会」は今年度よりできた新しい事業です。当日は十一月二十四日にシミュレーションした通りに進行し、活発なディスカッション、質疑応答も行われ、初めての事業としては成功したように思います。

(担当理事・國田浩之)

会員懇親会

新地の夜に秋の味覚を楽しむ会

H27.10.28

☒ HP

一〇月二十八日(水)、毎年恒例の会員懇親会が開催されました。診療のお疲れのところまた、月末の大変お忙しい中、三六名の多くの先生方にお集まりいただきました。今年のテーマは「北新地の夜に秋の味覚を楽しむ会」ということで、北新地にある「つるとんたん琴しよう楼」で開催されました。

開会にあたり、大塚会長の挨拶があり「黒川会長、高麗会長の後を引き継ぎ会長という重責を担うことになり、早四か月がたちました。当会の『和を以て貴しと為す』の精神の下、これからも当会のために頑張っていく所存です。今日は先輩、後輩の関係なく膝を突き合わせて懇親を図っていただければ何よりです。」

その後、大塚三先生の御発声で乾杯を行い、懇親会が始まりました。

各テーブルでは会員同士が仕事の話、遊びの話、趣味の話に花を咲かせ、懇親会ならではの楽しい雰囲気となりました。途中、三名の新入会員の先生(二班・谷木俊夫先生、四班・増田智基先生、八班・谷山智秀先生)の紹介が行われました。和やかな懇談の中、伊勢海老、アワビ料理、などの季節の食材を用いた料理が並べられ、最後は鍋料理で秋の味覚を堪能しました。

あつという間に予定時間は過ぎ、野口副会長による閉会の挨拶で懇親会は終了しました。御出席の先生方、本当にありがとうございました。

(担当理事・國田浩之)



その後、大塚三先生の御発声で乾杯を行い、懇親会が始まりました。

各テーブルでは会員同士が仕事の話、遊びの話、趣味の話に花を咲かせ、懇親会ならではの楽しい雰囲気となりました。途中、三名の新入会員の先生(二班・谷木俊夫先生、四班・増田智基先生、八班・谷山智秀先生)の紹介が行われました。和やかな懇談の中、伊勢海老、アワビ料理、などの季節の食材を用いた料理が並べられ、最後は鍋料理で秋の味覚を堪能しました。

あつという間に予定時間は過ぎ、野口副会長による閉会の挨拶で懇親会は終了しました。御出席の先生方、本当にありがとうございました。

(担当理事・國田浩之)



大阪市生涯歯科 保健推進事業

H27.11.11

十一月十一日(木)、午前九時より昨年に続き大阪市立堀川幼稚園で、大阪市生涯歯科保健推進事業を行いました。

堀川幼稚園の園医の谷口が最初に歯科検診を実施した後、樋口常務理事より今回の事業の主旨説明がありました。

その後、大阪府歯科衛生士会から来られた永井先生より、園児と保護者に虫歯予防の指導があり、園児の歯垢染め出しの後、染め出し確認と記入チェックを保護者に行っていたきました。続けて仕上げみがきの歯みがき指導とフッ素塗布を行いました。また、嘔むことの大切さと唾液の話を中心に谷口が保護者に対して講話しました。

平成二八年三月で堀川幼稚園は閉園となりますので、次回からは大阪市立滝川幼稚園で本事業を引き継いでいただく予定です。今回は滝川幼稚園の園医である岡田理事にも参加していただきました。

(谷口浩康記)

北歯ゴルフ同好会秋季コンペ

H27 9.6

九月六日(日)、北歯ゴルフ同好会の秋季コンペが、アートレイクゴルフ倶楽部で開催されました。

今回は各々の諸事情が重なり、メンバー〇名、ビジター四名、計一四名と参加者の少ない秋コンペになりました。

当日は台風の迫る曇天の中、スタート直前からぽつぽつと雨が降り出しましたが、昼食までは楽しく終えることができました。午後スタート後雨足が強くなり、残念ながら中断し、午前ハーフのみでの競技となりました。幸い皆さんけがもなく、

プレー後にはアートレイクゴルフ倶楽部の天然温泉にゆつくりつかっていただき、和んだ中での表彰式となりました。

成績は、久しぶりにご参加いただいた吉川與司雄先生が優勝、野口秀夫先生が二位、吉田皓先生が三位という結果になりました。

今回の春季コンペは平成二八年四月一〇日(日)、西宮高原ゴルフ倶楽部にて開催予定です。奮ってのご参加お待ちしております。

尚、ゴルフ同好会への入会を希望される先生は、土岐一仁先生までご連絡お願い致します。(樋口夏彦記)

平成27年度・北歯ゴルフ同好会秋季コンペ成績表

RANK	NAME	IN	GROSS	HCP	NET	次回HCP
優勝	吉川與司雄	49	49	12.5	36.50	18
準優勝	野口秀夫	46	46	8.5	37.50	14
3位	吉田皓	43	43	5	38.00	9
4位	田中康隆	43	43	4.5	38.50	
5位	橋本收	47	47	8	39.00	
6位	西川亨	48	48	8	40.00	
7位	樋口夏彦	53	53	12.5	40.50	
8位	松井重文	46	46	4.5	41.50	
9位	高麗誠紀	51	51	9	42.00	
10位	橋本哲志	48	48	4	44.00	
11位	水沼和夫	68	68	19	49.00	39
12位	土岐一仁	55	55	5	50.00	6
13位	黒川森夫	67	67	15	52.00	31
14位	國田浩之	71	71	18	53.00	37

※北歯コンペは、同ネットの場合の順位はハンディ上位、年齢上位、女性上位の順で決定します。敬称略/順不同

訃報



吉田功先生(3班)

平成二七年十月二四日死去

御略歴

昭和一九年十一月二四日生

昭和四四年

大阪歯科大学卒

(診療所)

歯科吉田クリニック

北区南森町二一―二十三

藤原ビル四階



新入会員

4班・増田 智基

(大歯大・平成十五年卒)



(診) 増田歯科・矯正歯科

北区東天満一―一八九

電 六三二一―一八七

F 六三二一―一八六

8班・谷山 智秀

(大歯大・平成七年卒)



(診) (医) 柏康会大阪

TTC梅田歯科医院

北区梅田一四―三六

上島ビル三階

電 六三四五―八七六八

F 六三四五―八七六六



9班・須田 剛義

(大阪大・平成十五年卒)



(診) (医) 須田歯科

北区角田町八―四七

阪急ランドビル二階

電 六三二五―七七五

F 六三二五―七五〇

11班・岡村 亘

(大歯大・平成二六年卒)



(診) (医) 應信会きらり歯科

北区菅栄町五―四

電 六七五五―四一八〇

F 六七五五―四一八一

編集後記

今年も残りわずかとなりました。来年は歯科界に良いニュースが流れる事を期待したいです。来年もどうぞよろしくお願ひ致します。